

幼稚園教育振興検討会で出された主な意見等

1 総則

<主な意見>

- 港区の幼稚園には、広く自然豊かな園庭など、恵まれた環境がある。
- 幼児期においては、遊びの中での学びが大切であり、幼稚園では、遊び込める環境を整えることが重要。

<個別意見>

(1) 幼稚園の魅力について

- ・ 港区の幼稚園は、公私立共に歴史があり、恵まれた環境を生かし積み重ねた充実した保育の実践や研究の実績があり、全国の幼児教育をリードする存在。
- ・ 広く自然豊かな園庭があり、季節の移り変わりをしっかりと感じられる環境がある。果物のなる木や豊富な草花に集まる昆虫、池に生まれるオタマジャクシなど、たくさんの環境資源を生かし、たくさんの経験ができる環境が整っている。
- ・ 日頃の小さな出来事を記録してくれたり、幼児同士のコミュニケーションを丁寧にフォローしてくれたりするなど、きめ細かな対応をしてくれる教員がいる。日常的にフィードバックがあることで、子どもと共に親も育ち合える環境がある。

(2) 幼稚園及び幼児教育のあるべき方向性について

- ・ 幼児期においては、遊びの中での学びが大切であり、実体験を通して心が動く経験をし、多様な人と関わることで将来の自分の考え方に繋がっていく。子どもが遊び込め、主体的に取り組み、考えられる環境を幼稚園が整えることが重要。
- ・ 幼児期から子どもに勉強をさせたいと考えている保護者も多いが、幼児期の子どもの育ちには遊びが大事ということが広まっていないので、保護者をはじめ区民全体に幼児教育の重要性を発信できると良い。
- ・ 子どもの主体的な判断を大切に、「やりたい」ということをやらせてあげるようにする中で、自分の意見を言葉にして相手に伝えること、相手の意見に共感していくことがとても大事。
- ・ 豊かな環境の中で、色々な人と折り合いを付けながら成長し、社会への適応力や柔軟性を学んでいく機会を与えていくことが必要。
- ・ 私立幼稚園では、宗教的な感情を育てることもしており、そうしたテーマについても考えていく必要がある。
- ・ 幼稚園の弁当無償化といった負担軽減や、年間予定の早期周知、園だより等の見やすさの改善、連絡ツール機能の有効活用等の利便性向上にも取り組んでほしい。

2 地域における幼児教育施設の役割

<主な意見>

- 幼稚園が地域に開かれ、気軽に相談でき、人と人とがつながる場となれると良いが、信頼関係を築くためのコミュニケーションや人員体制が課題となる。
- 幼稚園で実践している幼児教育を他の教育・保育施設へ還元していくことも役割の一つ。
- こども誰でも通園制度も検討したいが、質の確保のための人材の確保が必要となる。また、私立幼稚園への制度説明が求められる。

<個別意見>

(1) 地域に開かれた幼稚園について

- ・ 未就園児の会なども含め、幼稚園が地域に開かれて誰でも気軽に相談に行けるような場所となると良い。発達が気になる子どもについても、専門の先生から具体的な提案ができると保護者の安心にもつながる。
- ・ 困った時などに相談しに足を運ぶと、子育ての情報を得られるような場になれると良い。
- ・ 幼稚園を核として、地域子どもたちや保護者同士、そうした親子と地域など、人と人とがつながる出会いの場となるような幼稚園を目指していきたい。
- ・ 園庭開放や未就園児の親子登園、保護者同士の交流の場なども園として提供したいと思うが、施設のキャパシティや職員体制が課題になるとともに、最近是不審者なども警戒しなくてはならない。
- ・ 保護者や子どもへ有効なアドバイスをするためには、相当丁寧なコミュニケーションを行い、信頼関係を築かなくてはならない。幼稚園が教育におけるセンターになるのは理想的だが、時間と費用を割かなければできない。

(2) 幼稚園における幼児教育の他施設への展開について

- ・ 幼稚園で培ったノウハウを広く他の保育施設にも還元していくことも役割の一つ。
- ・ 実践している幼児教育を地域の中にある様々な教育・保育施設と共有しながら、一緒にレベルアップしていくことに力を尽くしていきたい。

(3) こども誰でも通園制度について

- ・ 保育室に余裕がある幼稚園では、こども誰でも通園制度の実施も検討していきたい。
- ・ こども誰でも通園制度を実施する場合、事業者への委託実施だと保育の質の担保が課題になってくる。幼稚園として保育の質を担保した上で人材を採用しないと意味がなくなってしまう。
- ・ こども誰でも通園制度については、私立幼稚園も制度について詳しく知らない状況。私立幼稚園向けにも制度設計に関する説明の機会を設けてほしい。

3 教育課程外の教育活動

<主な意見>

- 預かり保育には、教育課程外の時間帯においても、幼稚園の良質な環境の中で、遊びやさまざまな体験の機会を提供できる意義がある。
- 共働き家庭が増える中で、幼稚園の恵まれた環境をより多くの方に提供できるよう、時代のニーズに合わせ、預かり保育の時間拡大の検討が必要。
- 運営の質を確保するためには、預かり保育も教員が担当する方が良い。
- 子どもの利益の観点から、預かり保育の過度な拡大には反対。

<個別意見>

(1) 事業の意義や必要性について

- ・ 特に都心に住む子どもは、家に帰っても動植物に触れる機会も限られ、室内で過ごすことが多く、大人や同年代の子どもとの関わりも減っている現状があると思う。幼稚園の教育課程の時間が終わった後に、引き続き幼稚園で良質な環境、質の高い遊びを提供できることに預かり保育の意義がある。
- ・ 預かり保育は、異年齢の子どもに関わりや、教育課程における教育時間とは違い、ゆっくりとした時間の流れている中で、自分の好きなことにじっくりと取り組める良さもある。

(2) 事業拡大について

- ・ 共働き家庭が増える中で、預かる時間の短さや、平日日中に行われる保護者会などが入園へのハードルになっている。時代のニーズに合わせていくのも、必要な変化だと思う。
- ・ 保護者からも、もう少し預かってもらえたらという声をいただくことが多い。恵まれた幼稚園施設、教育環境をより多くの方に提供できるという点で、預かり保育の時間を検討する必要がある。
- ・ 幼稚園に通うに当たっては、長期休暇中の預け先が障壁となる。8月は保育園での預かり事業があるが、夏休みに入る7月下旬や冬休み、春休みの預け先確保が課題となっている。
- ・ 9時登園ではなく、その前の時間帯の預かりもあるとパートなどで働けるので、朝の時間帯を少し延ばしてもらえるとありがたい。
- ・ 自身が通う園では、朝の預かりと夕方も17時過ぎまで預かり保育があり、利用している保護者としてはすごくありがたい。また、預かり保育の時間帯に体操や英語の教室があり、預かり保育の中で習い事をさせられるのが良い。

(3) 運営の質の確保について

- ・ 預かり保育だからDVDを見せておけばいいということではなく、教育時間として日中の保育と中身や方針は大きく変えず、恩恵が子どもたちに還元されるような時間であってほしい。

- ・ 自身が通う園では、幼稚園で働いていた教員のOBの先生が時短勤務で預かり保育を担当しているので、安心感があって利用しやすい。
- ・ 利用する子どもが楽しく過ごせる質の高い預かり保育を実施しなければいけない。そのためにはしっかりとした職員をつけないといけない。港区として教育課程外の教育を推進しようとするならば、区として独自に専任教諭 1 人分の人件費を出すようなことを検討していただかないといけない。
- ・ 預かり保育も教員が担当するというのを大事に実施しているが、教員の不足や負担は否めない。
- ・ 預かり保育の質の確保を幼稚園に押し付けてしまうのではなく、行政がサポートしながら人材や人件費、遊び道具などについての支援も検討していかないと、良質な預かり保育を作り上げていくのは難しい。

(4) 課題や留意事項等について

- ・ 預かり保育の拡大には反対。幼稚園は幼稚園らしく子どもの育ちを保障し、それを徹底的に追及していくのが任務である。
- ・ 預かりの時間を長くしても子どもにとってつまらない時間だったらほとんど意味がないし、むしろ逆効果である。
- ・ 幼児の心身の負担にもしっかりと配慮した運営の工夫や内容について、検討していく必要がある。
- ・ 子どものためには保護者の支援もある程度は必要だと考えるが、それが野放図になると子どもの権利を阻害することになる。子どもの権利を阻害しない範囲内で幼稚園はやっていかなければならない。
- ・ 預かり保育は、子育てを支援するためにとっても大事だと思いつつも、それが子どもの幸福に繋がるか、子どもが幸福なのかどうかについては厳しく見ていきたい。親の幸福と子どもの幸福は、かなり難しいバランスがある。
- ・ 区立幼稚園の預かり保育については、キャンセル待ちの結果が分かるのが当日の朝になっていて使いづらい。申込みのシステム化や年間利用の条件緩和があると利用しやすくなる。

4 教員の確保

<主な意見>

- 質の高い幼児教育を提供するためには良質な教員が必要だが、教員のなり手不足もあり、その確保が喫緊の課題となっている。
- 教員確保のため、行政からの支援もがあるとありがたい。

<個別意見>

(1) 現状の課題について

- ・ 幼稚園にとって最大の課題は、人材の確保であるが、教員のなり手がいない状況もある。保育士には家賃補助があるが、幼稚園教諭にはそうした補助がない。
- ・ 幼稚園の喫緊の課題は良質な教員の確保。より良い教員を確保していくことが短期的な目標。
- ・ 幼稚園は1学級35人の配置基準となっており、園児数に対して教員が不足する。
- ・ 保護者目線でも、教員の数が足りていないと感ずることがある。育休明けの先生が引継ぎなしに交代しているのを見ると、保護者は不安に感ずる。

(2) 課題への対応について

- ・ 学級定員を減らすべきだと思うし、副園長や主幹教諭を必置にするなど、教員配置を増やすことで豊かな環境を作り出せる。
- ・ 国の基準は簡単には変わらないので、区の方で人員配置の基準を1人増やすなどの対応ができると良い。
- ・ 補助があると幼稚園教諭を目指す人にとってはありがたい。補助の多い保育園に人材が流れてしまうのは寂しいことなので、幼稚園教諭を目指す人が増えるようにしてもらいたい。

5 幼稚園の魅力のPR、情報発信について

<主な意見>

- 幼稚園の魅力がしっかりと伝わっていない現状があるので、SNS等も用いたより積極的な発信が必要。

<個別意見>

- ・ 幼稚園のいいところを思い切りPRしていきたいが、効果的な方法がよくわからない。
- ・ ホームページやSNSに情報がなく、ブログなどにも魅力を感じなかったので、情報発信を多くしてほしい。
- ・ 幼稚園には遊び込める恵まれた環境があるということを、地域や社会全体に発信していけるような手立てがあると良い。

- ・ 保護者世代に影響力があるインスタグラムなどを活用し、各幼稚園のショート動画を作成して流すなども良いと考えている。
- ・ 公立や私立の立場を超えて、港区の幼稚園が大事にしていることを発信していくような機会ができればいいと思う。

6 その他（幼児を取り巻く環境）

<主な意見>

- 幼児人口減少への対応が課題。
- インターナショナルスクールへの就園が増えているが、区からの補助のあり方には疑問がある。
- 多くの保育園に園庭がない状況の改善が必要。

<個別意見>

（１）幼児人口の減少について

- ・ 幼児人口の急減が非常に大きな課題であり、教育施設が多すぎる。規模を縮小しても、子ども主体の環境を整えていくことが幼稚園に求められる。

（２）インターナショナルスクールへの就学者について

- ・ 英語教育への関心が高い保護者が多く、インターナショナルスクールに通わせている家庭が多くあるが、幼児期の子どもの育ちに必要な経験は、そうした勉強の側面だけではないことを伝えたい。
- ・ 港区では、インターナショナルスクールなどの認可外保育施設に通う保護者に対して月額９万円を超える補助金を出している。私立幼稚園に通う保護者に対しては月額３万円程度の補助であり、おかしな状況である。
- ・ 立派な教育をしているインターナショナルスクールもあるが、全てが同様の水準であるとは言い難く、途中で事業をやめてしまう施設もある。

（３）保育園の環境について

- ・ 区内の保育園の９割には園庭がなく、遊びを通じた学びを十分に行える環境が整っているとは言えない。こうした問題を解決し、時間の制約がある保護者の子どもは、保育園に通わせるのが良い。